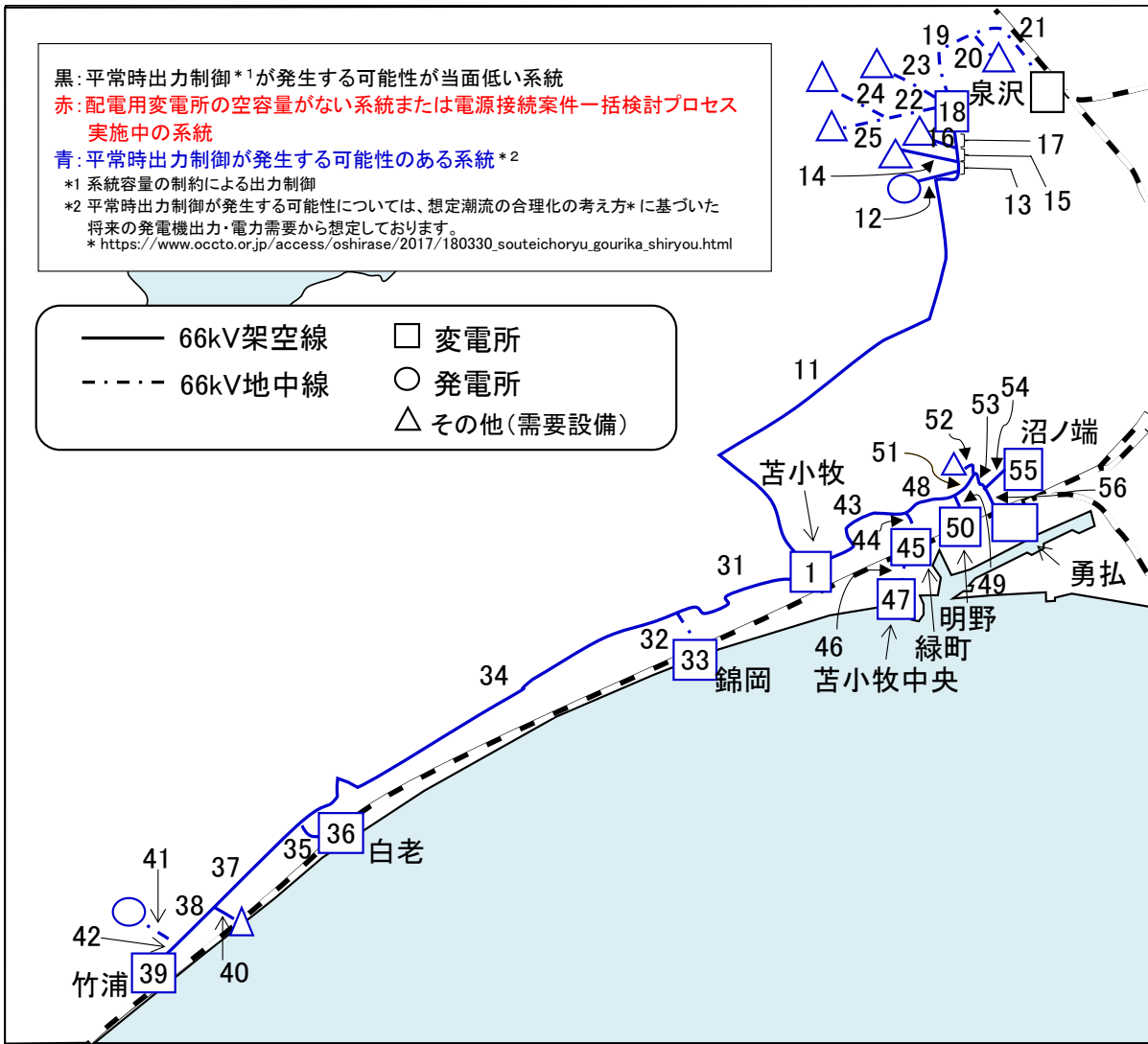


21 苫小牧系統空容量マップ



※マップ上の数字は、各設備の番号を表しています。当該設備の空容量は、マップ名に対応した空容量一覧表での同番号箇所に記載しています。

【留意事項】

- (1) 平常時出力制御の可能性の有無に関わらず、ノンファーム型接続適用電源となります。(低圧10kW未満の電源を除く)
- (2) 運用容量値は、電圧や系統安定度などの制約により、変わる場合があります。備考欄をご参照願います。  
※1 1回線送電線(1バンク運用)のため1回線(1バンク)設備容量を記載  
※2 3回線送電線(3バンク運用)のため1回線(1バンク)故障時を考慮し2回線(2バンク)分の容量を記載
- (3) 空容量や平常時出力制御の可能性は目安となります。系統接続の前には、接続検討のお申込みが必要となり、検討の結果、変更となる場合があります。
- (4) 原則として熱容量に基づく空容量および平常時出力制御の可能性を記載しております。その他の要因(電圧や系統安定度など)で連系制約が発生する場合があります。
- (5) N-1電制適用可否欄には、当該設備へのN-1電制の適用可否の目安を記載しております。なお、N-1電制は費用便益評価により設置判断されるため、N-1電制適用可能量有りでも、設置されるとは限りません。  
適用不可の場合の理由は以下のとおりです。  
#1 1回線送電線のため  
#2 配電用変電所のため
- (6) N-1電制適用可能量欄には、熱容量制約の解消のため当該設備にN-1電制を適用した場合の適用可能量(上位系考慮なし)の目安を記載しております。系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、適用可能量が変更となる場合があります。
- (7) 発電設備等が連系する変圧器によっては、別途バンク逆潮流対策が必要になる可能性があります。
- (8) 3年以内に増強した系統へ連系する場合は、空容量の範囲内であっても、増強工事費の一部を負担いただくことがあります。
- (9) 電源線に新規電源が連系する際、系統増強が必要になる場合があります。詳細については、接続検討の中でお示しします。  
※電力広域的運営推進機関が公表している「系統の接続および利用ルールについて~ノンファーム接続~」でも、新規電源連系時のアクセス線等の取扱いが整理されています。  
<https://www.occto.or.jp/grid/business/setsuzoku.html#non-firm>
- (10) 社会的に影響を与えることが懸念される重要施設への供給系統に関する情報や、電力供給契約が特定できるような第三者情報などについては、公開しておりません。
- (11) 個々の電源の運転状況や需要者の電力使用状況が推測可能な電源線や専用線等であり、設備容量、運用容量、N-1電制可否、N-1電制可能量を非公開とする設備は、備考欄に「◇」を記載しております。
- (12) 平常時出力制御が必要となる設備欄は、平常時出力制御が発生する可能性について、想定潮流の合理化の考え方\*に基づいた将来の発電機出力・電力需要から想定し、該当設備を記載しております。  
\* [https://www.occto.or.jp/access/oshirase/2017/180330\\_souteichoryu\\_gourika\\_shiryou.html](https://www.occto.or.jp/access/oshirase/2017/180330_souteichoryu_gourika_shiryou.html)

送電線 No	送電線名	電圧 (kV)	回線数	設備容量 (100%×回線数) (MW)	運用容量値 (MW)	運用容量制約要因	空容量(MW)		N-1電制適用可否	N-1電制適用可能量 (MW)	平常時出力制御の可能性	平常時出力制御が必要となる設備		備考
							当該設備	上位系等考慮				当該設備	上位系設備	
11	泉沢線	66	2	128	64	熱容量	37	0	可	64	有り	—	変1(187/66kV連変)および「187kV以上系統」の送24,送25,送26,送27,送33 ⇒以下、これらをAと表示	
12	他社支線	66	1	—	—	熱容量	14	0	—	—	有り	—	A	◇
13	泉沢線	66	2	168	84	熱容量	94	0	可	84	有り	—	A	
14	他社支線	66	2	—	—	熱容量	43	0	—	—	有り	—	A	◇
15	泉沢線	66	2	168	84	熱容量	90	0	可	84	有り	—	A	
16	他社支線	66	1	—	—	熱容量	39	0	—	—	有り	—	A	◇
17	泉沢線	66	2	136	68	熱容量	74	0	可	68	有り	—	A	
19	自社地中線	66	1	49	49	熱容量	49	0	不可 #1	—	有り	—	A	※1
20	他社支線	66	1	—	—	熱容量	64	0	—	—	有り	—	A	◇
21	自社地中線	66	1	49	49	熱容量	49	0	不可 #1	—	有り	—	A	※1
22	他社支線	66	2	—	—	熱容量	42	0	—	—	有り	—	A	◇
23	他社支線	66	2	—	—	熱容量	39	0	—	—	有り	—	A	◇
24	他社支線	66	2	—	—	熱容量	16	0	—	—	有り	—	A	◇
25	他社支線	66	2	—	—	熱容量	42	0	—	—	有り	—	A	◇
31	白老線	66	2	128	64	熱容量	0	0	可	0	有り	対象	A	
32	錦岡地中支線	66	2	62	31	熱容量	23	0	可	31	有り	—	A,送31	
34	白老線	66	2	128	64	熱容量	0	0	可	6	有り	対象	A,送31	
35	白老支線	66	2	46	23	熱容量	3	0	可	23	有り	—	A,送31,送34	
37	白老線	66	2	128	64	熱容量	0	0	可	25	有り	対象	A,送31,送34	
38	竹浦支線	66	2	100	50	熱容量	20	0	可	50	有り	—	A,送31,送34,送37	
40	白老線	66	2	—	—	熱容量	68	0	—	—	有り	—	A,送31,送34,送37	◇
41	他社地中支線	66	1	—	—	熱容量	13	0	—	—	有り	—	A,送31,送34,送37	◇
42	竹浦支線	66	2	100	50	熱容量	40	0	可	50	有り	—	A,送31,送34,送37	
43	苫小牧線	66	2	204	102	熱容量	126	0	可	100	有り	—	A	
44	緑町地中線	66	2	100	50	熱容量	68	0	可	50	有り	—	A	
46	苫小牧中央地中線	66	1	53	53	熱容量	53	0	不可 #1	—	有り	—	A	※1
48	苫小牧線	66	2	204	102	熱容量	107	0	可	100	有り	—	A	
49	明野地中支線	66	2	104	52	熱容量	57	0	可	52	有り	—	A	
51	苫小牧線	66	2	204	102	熱容量	101	0	可	100	有り	—	A	
52	他社支線	66	2	—	—	熱容量	56	0	—	—	有り	—	A	◇
53	苫小牧線	66	2	204	102	熱容量	99	0	可	100	有り	—	A	
54	沼ノ端支線	66	2	112	56	熱容量	53	0	可	56	有り	—	A	
56	苫小牧線	66	2	204	102	熱容量	102	0	可	100	有り	—	A	

変電所 No	変電所名	電圧 (kV)		台数	設備容量 (100%×台数) (MW)	運用容量値 (MW)	運用容量制約要因	空容量(MW)		N-1電制適用可否	N-1電制適用可能量 (MW)	平常時出力制御の可能性	平常時出力制御が必要となる設備		備考
		一次	二次					当該設備	上位系等考慮				当該設備	上位系設備	
1	苫小牧変電所	187	66	3	350	199	熱容量	0	0	可	100	有り	対象	「187kV以上系統」の送24,送25,送26,送27,送33	※2
		66	6.6	3	45	30	熱容量	15	0	不可 #2	—	有り	—	A	※2
18	泉沢変電所	66	6.6	2	40	20	熱容量	12	0	不可 #2	—	有り	—	A	
33	錦岡変電所	66	6.6	2	20	10	熱容量	3	0	不可 #2	—	有り	—	A,送31	
36	白老変電所	66	6.6	2	12	6	熱容量	2	0	不可 #2	—	有り	—	A,送31,送34	
39	竹浦変電所	66	6.6	2	18	6	熱容量	1	0	不可 #2	—	有り	—	A,送31,送34,送37	
45	緑町変電所	66	6.6	3	40	25	熱容量	10	0	不可 #2	—	有り	—	A	※2
47	苫小牧中央変電所	66	6.6	1	15	15	熱容量	15	0	不可 #2	—	有り	—	A	※1
50	明野変電所	66	6.6	3	30	20	熱容量	9	0	不可 #2	—	有り	—	A	※2
55	沼ノ端変電所	66	6.6	1	15	15	熱容量	11	0	不可 #2	—	有り	—	A	※1